



国際ロータリークラブ第2620地区 2023-2024年度
 RI会長 ゴードンR. マッキナリー
 会長 竹田 浩富 幹事 伊原 謙治

朝霧アリーナより



竹田 浩富 会長

例会場 富嶽温泉 花の湯 例会日 毎週金曜日 月の最終週は夜間
 事務所 〒418-0003 静岡県富士宮市ひばりが丘805 富嶽温泉 花の湯内 公式HP <http://fujinomiya-west-rc.com/>
 TEL.0544-23-2122 FAX.0544-23-2122 Mail fujinomiyawestrotary@mountain.ocn.ne.jp

No.13 通算 1544 号 2023年10月20日(金)

ゲストビジターの紹介

ゲスト・ビジター：なし

会長挨拶 会長：竹田 浩富 君

10/14の国際RI第2620地区大会が開かれましたことを報告します。参加して下さった会員諸氏に感謝いたします。大会の内容については11/17の例会で報告します。

新聞は今実際にどれほど読まれているのかということをお話したいと思います。紙媒体としての新聞の発行部数は激減しており、購読者数もそれにつれて減少していることは容易に想像がつかます。それでは実際、新聞はどれほど読まれているのでしょうか。新聞通信調査会が2022年11月に発表した「メディアに関する世論調査」の結果を確認していきます。新聞を毎日読んでいる人は4割ほど。一方、新聞を読んでいない人も4割強という結果になっています。毎日読む人ですが、女性よりは男性、若年層よりは高齢層の方が値は高いということの様です。

ここ数年の傾向を見ると、減少傾向が生じているといえます。一方で70歳以上は横ばいのままだった。新聞への傾注ぶりに変化がなかったことがうかがえます。ただし2020年度から2021年度にかけて、中年層以上の複数の階層で大きく数値が落ちており、イレギュラーの可能性のあるものの、高齢者の新聞離れが始まったのではとの予感を思わせます。他方、直近の2022年度では50代で大きな落ち込みが生じています。ともあれ「回し読み」を考慮した読頻度の視点でも、「若年層は新聞を読まない」「高齢層は大いに新聞を好む」という実態に変わりはないようです。今現在私の周りの人たちの中にも、新聞購読を止めまし

たという方が大勢いることに驚きます。我が家もあと何年新聞を取るのか分かりません、たぶん近い将来新聞の購読は止めると思います。この会長挨拶をしなくなれば必要なくなると思います。皆さんのお宅はいかがでしょうか。

幹事報告

幹事 伊原 謙治 君

*別紙幹事報告参照

*次回10月27日(金)は朝霧アリーナにて、ミツバツツジ植栽のメンテナンスを目的にした例会です。作業にご参加の方は10時ごろに来て下さい。例会の点鐘は12:30です。

*11月9日(木)18:30 フォレストヒルズで富士宮RCと2クラブ合同例会を開催します。11/10(金)は振替休会となります。

*理事会決定にて米山奨学会特別寄付に関してこれまで1人/12,000/年を本年は2,000/年に減額します。

出席報告

	会員数	計算会員数	出席	欠席	MU	比率
今週	22	21	17	5	0	80.9%

☆は出席免除者

欠席者：☆外木規之 仲亀秀樹 岡村吉彦 遠藤克彦
 渡邊奈津実 大谷裕也

本日のお祝い

該当者なし

本日のスマイル

○秋祭りの準備が開始。あっという間の一年でした

… 石川俊洋君

【会報委員会】委員長：貫名英舜

委員：後藤憲治 近藤憲司 片岡博昌 早川英寿

○久々の出席です。元気です …早川英寿君
○今週号の会報、できの良さに …後藤憲治君
○趣味で始めた米作り。明日借り入れです。新米が楽しみです …伊原謙治君

本日のプログラム

ロータリー米山記念奨学会について

担当：ロータリー財団委員会（*米山委員会を兼ねる）



10月は米山月間です。日本のロータリークラブの創始者米山梅吉翁の事績を知り、米山梅吉翁の逝去なされた後でこのロータリー米山記念奨学会の事業が始まりました。

ロータリー米山記念奨学会は、勉学、研究を志して日本に在留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、奨学金を支給し支援する民間の奨学団体です。

ロータリー米山記念奨学会は、将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。優秀性とは(1) 学業に対する熱意や優秀成績、(2) 異文化理解への意欲(3) コミュニケーション能力の三つで判断されます。

ロータリー米山奨学生は、ロータリークラブを通して日本の文化、習慣などに触れ、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来ロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献する人となることが期待されます。

現在の年間の奨学生採用数は約900人、事業費は約14億4700万円(2020-21年度決算)です。これまでに支援してきた奨学生数は累計で22,875人(2022年7月現在)。その出身国は世界129の国と地域です。

1つのクラブが、1人の奨学生の「世話クラブ」となります。米山奨学生は世話クラブの例会に月に一回以上出席し、ロータリー会員と積極的に交流して国際交流・相互理解を深めるとともに、ロータリーの奉仕の心を学びます。世話クラブのロータリアンの中から1人がカウンセラーとなります。カウンセラーは、奨学生の個人的ケアにあたるアドバイザーです。

様々な職業、世代で構成されるロータリークラブでの交流は、奨学生が日本文化に接し、将来や奉仕について

考える機会となります。米山奨学生とロータリアンの交流は、相互理解のみならず、双方にとって財産となるものです。

当クラブはこれまで3人の奨学生をお世話してきました。これから機会があれば参画したいと思います。

※米山梅吉翁 生涯と事績 NOTE

米山奨学事業の記念の称号を付した米山梅吉翁(1868-1946)は、幼少にして父と死別し、母の手一つで育てられました。16歳の時、静岡県長泉町から上京し、働きながら勉学に励みました。19歳で米国へ渡り、ベルモント・アカデミー(カリフォルニア州)ウエスレヤン大学(オハイオ州)シラキウス大学(ニューヨーク州)で8年間の苦学の留学生活を送りました。



帰国後、文筆家を志して勝海舟に師事しますが、友人の薦めで三井銀行に入社し常務取締役となり、その後、三井信託株式会社を創立し取締役社長に就任しました。信託業法が制定されると逸早く信託会社を設立して、新分野を開拓し、その目的を”社会への貢献”とするなど、今日でいうフィランソロピー(Philanthropy*)の基盤を作りました。

晩年は財団法人三井報恩会の理事長となり、ハンセン病・結核・癌研究の助成など多くの社会事業・医療事業に奉仕しました。また、子どもの教育のために、はる夫人と共に私財を投じて小学校を創立しました。”何事も人々からしてほしいと望むことは人々にもその通りせよ”これは米山梅吉氏の願いでもあり、ご自身の生涯そのものでした。”他人への思いやりと助け合い”の精神を身もって行いつつ、そのことについて多くを語らなかつた陰徳の人でした。

※なぜロータリーの留学生支援なのか

「今後、日本の生きる道は平和しかない。それをアジアに、そして世界に理解してもらうためには、一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築くこと。それこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか」…ロータリー米山記念奨学会事業創設の背景には、当時のロータリアンのこのような思いがありました。それから60年余の歳月が流れましたが、”民間外交として世界に平和の種子を蒔く”という米山奨学事業の使命は一貫して変わっていません。むしろ、今日の世界情勢と日本の置かれている状況を考えるとき、その使命はますます重要性を増しているのではないのでしょうか。